



▲急ピッチで進む安全施設整備

県では、悲惨な交通事故の発生を防止し、交通安全と円滑を確保するため、市町村その他の関係機関及び団体等と密接な連絡調整を図りながら下記の事業を実施し

ます。また防災面では、防災行政無線の端末局増設、市町村の消防施設整備の助成など県民の生命と生活を災害から守る体制整備を図ります。

★県民の交通安全意識の高揚………

二千三百十八万円

県民総参加の事故防止運動を展開するために、市町村安全担当者、交通指導員、幼稚園・保育所安全担当者、母親、老人及びダンブカー事業者などを対象に研修会の開催、また、地域、職域のリーダーを育成するなど末端組織における安全教育体制の強化促進を図ります。

★高校生の交通安全対策………

二百二十二万円

高校の安全担当者等を対象に単車の実技をおとした講習会を行うと共に学校別に単車の専門指導員を派遣して、高校生に対する交通安全講習会を行います。

★交通安全施設整備………

十一億千五百六十六万円

○道路管理者事業
第二次交通安全施設等整備事業五か年計画の初年度事業として、歩道、自転車道、防護柵、反射鏡及び標識・標示などを計画的に設置します。

○公安委員会事業

公安委員会では、信号機、標識及び標示を緊急度に応じて整備します。

★通学路等緊急施設整備………

二千八百万円

通園通学路、老人施設及び身障者施設などの周辺並びに生活ゾーンを重点とし

て、歩道改良などの小規模安全施設を整備します。

★石油コンビナートなどの災害対策………

五十八万円

五十年末「石油コンビナート等災害防止法」が制定され、石油・高圧ガスなどを大量に取扱う区域（本県では八代市大島石油基地が該当の予定）について、自衛防災組織の確立、防災資機材の整備、防災計画の作成等特別の防災対策を講ずることになりました。今後企業を含めた関係機関が一体となって災害の発生・拡大の防止に取り組みます。

★防災行政無線の整備強化………

千四百七十三万円

非常災害時の通信手段を確保し、災害対策の万全を期するため設置した県の防災行政無線は、現在円滑に運用中ですが、更に整備強化するため、端末局の増設等に要する経費を計上しました。

★市町村消防施設強化………千二百四万円

市町村の消防施設を更に整備強化するため、小型動力ポンプ（老朽更新用）、積載車及び防火水槽の整備事業に対して、助成しようとするものです。五十一年度は、基準額を引上げるとともに、二十立方メートルの防火水槽にも新規に補完にしました。

全国的な高齢者人口増加の傾向に伴って生ずる諸問題は、経済情勢の変化、核家族化の傾向などで一層大きくなっています。今後とも福祉施策のなかで老人福祉の面は重点的に考えなければならぬ問題です。

昭和五十一年度は施設の充実のほか特に在宅福祉に重点をおいて次の事業を実施します。

★老人保健医療………

十一億六千三百五十三万円

老人の健康管理、疾病の早期発見、早期治療に資するため、老人保健学級、健康診査を実施するほか、七十歳以上及び六十五歳以上のねたきりの方の医療費の無料化や老人性白内障手術費の負担、在宅老人の機能回復訓練などを実施します。

★老人スポーツ大会………四百万円

老人の健康維持と生きがいを高めるため、県下十四地区において老人によるスポーツ大会を行います。

★大規模年金保養基地対策………

六百三十一万円

大自然の中で老人を中心として家庭や広く各世代の人達が交流することにより老人の心身両面の健康と生きがいが高めるため南阿蘇久木野地区に年金保養基地が建設されることになっています。本年

度は具体的な計画策定に必要な各種調査を行います。

★老人クラブ助成………八千九百四十万円

老人クラブ活動推進員を設置するほか県内二千五百七十の老人クラブに対して活動費の助成をします。

★高令者職業紹介………五百六十四万円

熊本市水道町熊本県福祉会館内の高齢者無料職業紹介所において高齢者の方に就労のあっせんその他各種相談に応ずることとしております。

★老人の住みよいふるさとづくり推進………

三千万円

老人はもとより、地域住民の積極的な参加と協力のもとに、地域の特性を生かして、老人が健康で明るい心豊かな生活を送られる地域社会づくりを総合的・体系的に実施することによって、①老人の知識と経験を地域社会に生かし、②老人の孤独と疎外感をなくし、③老人と地域すべての人の交流と連帯を深め、老人の住みよいふるさとづくりを推進します。

★老人家庭奉仕員の派遣………

一億四千三十万円

老衰、傷病等のため日常生活を営むことが困難な低所得世帯の老人で家族の養護が得られない場合、家庭奉仕員を派遣してその身の回りの世話を行わせます。